



サケ・マス稚魚陸上2次育成池の完成を祝い開催された放流式（4月17日）

新町「せたな町」 スタートへ向けて

本年9月1日、新町「せたな町」がスタートします。明治13年、現在の「瀬棚」が誕生して125年。人が幾多の困難に耐え、築き上げてこられたその輝かしい歴史に、今、幕を閉じようとしております。

平成の大合併という大号令のもと、全国各地で繰り広げられる合併論議は、新法の施行を前に一通りの形が見えてきました。しかし、道内に限ってみると、多くの協議会が合併を見送つています。その背景には、おのおの事情があつてのことと思いますが、檜山北部3町は、この選択を単に時代の流れとしてではなく、長引く不況に端を発しての国の地方財政計画の大幅な縮減、さらに地方分権や道州制による市町村への大規模な事務・権限移譲、少子高齢化の急速な進展など、その受皿となる基礎自治体が果たすべき役割はますます重要なになってくることから、将来必ずや訪れる小規模町村への厳しい現実を見据えての決断であります。

合併で一番大切なことは、3つの町・地域がそれぞれ均衡ある発

特集・平成17年度予算

歴史が動き出す 「時」に向かって

平成17年度は合併という特殊な事情を勘案した予算執行となります。各種事業の推進にあたっては、国の基本方針を的確にとらえ、限られた財源の中で一層の経費の節減に努めるとともに、これまで取り組んできた施策のさらなる進展につながる施策につきましても、積極的に取り組んでいきます。そうした本年度の予算の概要について皆さんにお知らせします。



展することになります。その道のりは決して平坦ではない中で、地域主権の自覚のもと、3町の町民の和をもつて新しい活力あるまちづくり、新たな歴史づくりのため、勇気と誇りをもつて果敢に挑戦することが、新町「せたな」の発展につながっていきます。

地域資源を活かした 産業振興を進めます

地域経済の柱である産業の振興は、新たなまちづくりを進めるうえで、その基盤となります。

本格稼動した日本初の洋上風力発電「風海鳥」は、全国に先駆けた取り組みとして高い評価をいたしました。さらに、地域資源を活かした新たな環境産業の形として民間による大型風車6基の建設が進められており、既存の風車と合わせた一大ウインドファームが誕生することになります。

漁業

「つくり・育て・売る漁業」の基礎づくりを進める水産業については、生産者の皆さんをはじめ、漁業協同組合の積極的な取組によ

グリーンパワー瀬棚が整備を進める大型風車設置イメージ



(フェリーターミナル側からのイメージ)

(南川地区側からのイメージ)

農業

新函館農業協同組合の組織改革により、瀬棚支店の体制も大きく変わりましたが、明日につながる農業発展のための取り組みに対し、引き続き支援していきます。

着実にその成果を現わしています。マリンタウン静穏域での増養殖事業のさらなる進展を図りながら、瀬棚港の整備や漁港の計画的な整備に努め、活気のある浜づくりを目指します。

り、着実にその成果を現わしています。マリンタウン静穏域での増養殖事業のさらなる進展を図りながら、瀬棚港の整備や漁港の計画的な整備に努め、活気のある浜づくりを目指します。

商工観光

合併により最も心配されている商業については、長引く不況の中、各商店・事業所が一体となりさまざま企画をもつて取り組まれています。新しいまちづくりの基本は、それぞれの地域が特色をもつて、地域の産業として力をつけることが大切です。そのことが、均衡ある発展に

ます。マリンタウン静穏域での増養殖事業のさらなる進展を図りながら、瀬棚港の整備や漁港の計画的な整備に努め、活気のある浜づくりを目指します。この取り組みは、これまで当町が進めてきた地域エネルギーの利活用や有機農業の推進などが認定されました。この取り組みは、これまで当町から新たな取り組みにつながったものです。地域の特性を活かした循環型の産業構造を目指すという当町からの新たな取り組みは、新町における地域産業の発展に大きく貢献するものと考えます。

北海道ではじめて認定された「有機酪農と有機農業の推進特区」により、株式会社による農業参入が行われました。この取り組みにより有機農業のさらなる推進が期待されます。

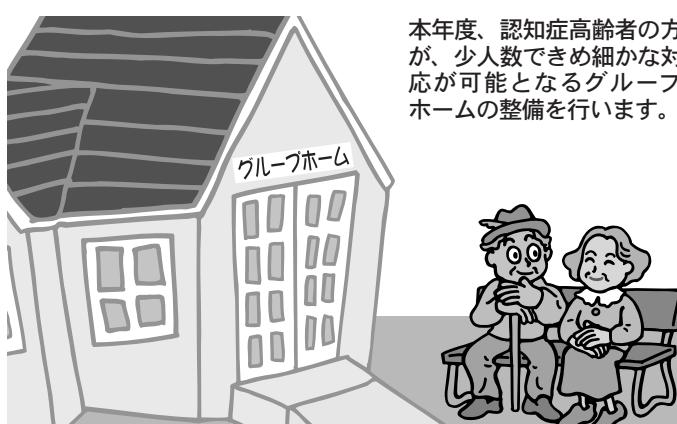
バイオマススタウン構想

新たな取り組みとして、国が進めている「バイオマススタウン構想」を受け、家畜ふん尿、水産残さ、家庭残さなどを活用したバイオマス発電により農漁業の栽培施設などに利用する当町の計画が、第一号として認定されました。

この取り組みは、これまで当町が進めてきた地域エネルギーの利活用や有機農業の推進などが認定されました。この取り組みは、これまで当町から新たな取り組みにつながったものです。地域の特性を活かした循環型の産業構造を目指すという当町からの新たな取り組みは、新町における地域産業の発展に大きく貢献するものと考えます。

結びつくものであり、そのための仕組みづくりや商工業に携わる皆さんとの積極的な挑戦に支援していきます。

地域資源を利用した産業間の連携による新たな観光産業の創出や漁火まつりを中心とする夏の観光客の誘致はもちろん、一年を通じた賑わいのあるまちづくりを進めるためにも、合併を機に広域的な視野に立った新たな観光資源の創出に向けて支援していきます。



本年度、認知症高齢者の方が、少人数できめ細かな対応が可能となるグループホームの整備を行います。



医療体制の充実に向け高規格救急車を導入
(写真は、横浜市消防局の高規格救急車です)



高規格救急車は、車内に救急救命士が、救急救命措置などを行なう際に必要な機器を装備し、器具を使った気道確保や点滴などが行える救急車両となっております。

安心して暮らせる 町を目指します

町民皆さんが「安心して暮らせる町」に寄せる期待や願いは、これまでもそして今後も変わることはあります。新しいまちづくりにおいても、一人一人が健康で、生きがいを持ちながら暮らせることが大切です。

保健・医療・介護

保健予防活動を柱とする医療センターでの取り組みは、本来の地域医療の形として高い評価を得ております。今後も引き続き地域に根ざした医療体制の充実に努めていきます。

また、救急救命士の育成に努めるとともに、高規格救急自動車を導入し、救急医療体制の充実を図っています。

高齢者の皆さんが安心して生活で

きる環境づくりとして、一人一人が楽しく安全な暮らしを続けるための介護事業の充実を進めるとともに、認知症高齢者の方が、少人数を単位とした共同住居の形態できめ細かな対応が可能となるグループホームの整備を行います。

国民健康保険事業につきましては、健康づくり事業や高齢者の交流事業を進め、皆さんの健康を守りな

がら医療費の軽減に努め、財政の健全化と被保険者の負担軽減を、さらには進めていきます。

子育て

子育て環境の充実は、これからまちづくりに大きな役割を果たすことから、保育所の運営や子育て支援事業、学童保育所などを通じ、健やかにたくましく子どもたちが育つよう環境づくりに努めていきます。

生活環境向上のため 計画的な整備を

豊かな地域資源を活かした生活環境の向上を目指して、快適で潤いのある生活を守らなければなりません。今年度も引き続き計画的に整備を進めるとともに、各関係機関との連携に努めます。

住宅・水道・道路

計画的に実施している公共下水道の整備、町営住宅の維持修繕については、今年度も引き続き進めていきます。

道路網の整備は、日々の生活や救急医療体制の確保、観光交流のため



平成17年度整備下水道工事予定箇所

- 〔三本杉〕 京谷さん～瀬棚物産地先（海側）
～瀬棚物産（山側）～来迎寺方向
- 〔南川〕 本間さん～和光生コン地先（海側）
- 〔南川〕 カナモトリース～国道横断（山側）
～法性寺～平田さん宅（海側）

平成17年度治山工事工事予定

- 〔西大里〕 老人ホームの沢復旧治山工事

平成17年度町道整備路線

- 町道島歌線道路維持補修工事（島歌）
路面整正50m
- 町道馬場川鈴の原線路肩補修工事
(横山一康さん宅地先) 土留工事15m
- 町道がんび岱幹線側溝流末改修工事
(岡崎覚さん宅前～第3会館地先)
横断管50m 集水枠6基



に欠かせないものであり、渡島半島横断道路の早期完成に向け関係機関に要請するとともに、国道の防災対策としてトンネルや海岸擁壁の改修など引き続き要請し、災害に強い道路づくりを進めています。

身近な生活路線であります道道、町道の整備につきましても、関係機関との連携を密にしながら、整備並びに適正な維持管理に努めていきます。

将来の町を担う 人づくりを進めます

子どもたちが夢と希望を持ちながら健やかに成長していくためには、当町の豊かな自然環境や産業、歴

クリーンな環境づくり

クリーンな環境づくりに向け、町民の皆さんを中心とした生活環境づくりが必要です。国道緑地帯の花壇の造成やゴミの不法投棄防止や減量化、資源ゴミなどの分別についてさらなる啓発に努めています。

防災・交通安全対策

災害に強い環境整備に向け、河川護岸対策や急傾斜地崩落対策など関係機関と密接な連携を取りながら整備を進めていきます。

また、近年の自然災害を教訓に日々の防災意識に心がけ、防災無線の活用、地区別の防災訓練、災害物資備蓄に努めるとともに、消防体制の充実・強化を図り、町民皆さんの生命の安全を確保するため、災害時の万全な体制づくりに努めます。

交通安全対策につきましては、交通安全指導員の皆さんを中心に地域ぐるみの啓発を進め、今後も交通事故のないまちづくりを目指します。

史・文化など地域の取り組みを活かした中での、確かな学力や豊かな心を育む教育を進めていくことが、ますます重要となっています。

そのため、教育研究所の支援など教育環境の向上に向けた取り組みのほか、学校、家庭、地域が連携しながら、未来を担う子どもたちや、まちづくりを担う人づくりを、教育委員会とともに進めていきます。



学校教育・社会教育

商業高等学校においては、即戦力につながる高度な教育施設の活用により、不況下の雇用情勢の厳しさにも立ち向かえる、地域に密着した人材の育成に努めています。

社会教育においては、生涯学習の観点に立ち、自ら考え、行動する意欲のある人材の育成が求められていますから、社会教育や体育団体と連携しながら、乳幼児期から高齢期までの各種生涯学習による、生きがいのあるまちづくりを進めていきます。



また、スポーツ施設の充実を図るため、海洋センター・プールのバリアフリー化など大規模改修を行い、一層の利用促進を図っていきます。

交流事業

姉妹都市ハンフォード市や荻野町子生誕地の妻沼町との交流事業は、本年度も引き続き実施していきます。昨年末のハンフォード市訪問の際には、合併後の継続交流についても話し合ってきたところであり、今後も相互の向上を目指す交流を進めています。

新町への適切な移行へ ご理解とご協力を

合併により、まちづくりの形は大きく変わろうとしています。しかし、未来あるまちづくりを進めるためには、風力発電事業や有機農業の推進、バイオマス事業、地域医療の取り組みなど、これまでの各般にわたる果敢な挑戦を継続することが、新町「せたな町」の基盤となることでしょう。

さらに、新町まちづくりプランにおいて位置づけております、医療・福祉、防災、救急医療など将来のまちづくりにつながる最重要課題につ

いても積極的に取り組むこととしながら、合併特例区や議会議員の在任特例といった制度を最大限活用しながら、合併後のそれぞれの地域が均衡ある発展が遂げられることが何よりも肝要であると考えております。

歴史が動き出す 「時」に向かって

合併によってこれまでの「時」がすべて閉じられるわけではなく、むしろ、新たな歴史が動き出す「時」であると思います。

これまでにない、あまりにも大きな転換期の中につくても、まちづくりは永遠に続いていきます。時代を先取りした数々の取り組みは、貴重な財産として、活力としてこれから新しいまちづくりに大きな力となつて活かされるものとなるでしょう。